

1 設置区分及び指導対象の見直し

(1) 活用の幅が広がるよう区分の見直し

背景

現行の緊急離発着場（医療施設を除く。）は、航空法上、災害時のみ使用できるものであり、訓練・演習や、震災時に民間ヘリコプターを活用した物資搬送などの使用はできない。

新基準

災害時以外においても運航許可がされる可能性がある航空法に基づく飛行場外離着陸場（要航空局許可）の基準を具備する緊急離発着場の設置指導を、三次救急医療施設以外にも拡大し、区分名称を「緊急離発着場（医療施設）」から「屋上緊急離着陸場（Ａ）」に変更する。これに伴い、従前の「緊急離発着場」を「屋上緊急離着陸場（Ｂ）」に変更した。

(2) 設置者の意向に配慮した指導対象・要領の見直し

背景

現在、「概ね100mを超える防火対象物」に緊急離発着場を、「概ね45mを超える防火対象物」に緊急救助スペースを設置指導しているが、屋上スペースの不足、多目的利用のニーズ及び費用面等の理由から、現行の一律の指導基準を見直して欲しいとの声が関係業界団体から寄せられていた。

新基準

- 関係者の意向が「防災性能の向上を希望する施設」の場合には、新区分で活用の幅が広がる「屋上緊急離着陸場（Ａ）」の設置を指導することとした。
- 「概ね100mを超える防火対象物」及び「概ね45mを超える防火対象物」を、「高層の防火対象物」へ対象区分を統一した。
- 設置指導時の留意事項として次のような点を明記した。
 - ・任意の協力によることを前提とした設置指導であること
 - ・屋上緑化等、他の目的での活用への配慮すること
 - ・共同住宅の場合の居住者の負担への配慮すること

〔現行〕

区分 \ 対象	三次救急医療施設等	防災関係公共施設	概ね100mを超える防火対象物	概ね45mを超える防火対象物
屋上ヘリポート	△	△	△	△
緊急離発着場（医療施設）	◎	—	—	—
緊急離発着場	—	◎	◎	△
緊急救助用スペース	—	—	○	◎

凡例：◎ … 要望する

○ … ◎の緊急離発着場の設置が困難な場合に要望するもの

△ … 推奨するもの



〔改定後〕

区分 \ 対象	三次救急医療施設等	・防災性能向上を希望する施設 ・防災関係公共施設	高層の防火対象物
屋上ヘリポート	設置者の意向による		
屋上緊急離着陸場（Ａ）	○	○	—
屋上緊急離着陸場（Ｂ）	—	○	○
緊急救助用スペース	—	—	○

凡例：○ … 設置を指導

2 新技術及び社会ニーズへの対応

新基準

新技術の登場や社会ニーズの変化に対応するために、予防事務審査・検査基準の設置指導基準を次のようにした。

- (1) 他の用途との併用時の注意点を明記した上で、併用を認めることとした。
- (2) 設置基準に新技術を含め、かつ、新製品を採用可能とした。

3 その他の見直し

新基準

- (1) 設置指導基準関係（主なもの）

ア 航空法令との用語の整合を図った

イ 待避場所の大きさ（救助を待つ必要最低限のスペース）

現行 … 標準300㎡

新基準 → **50㎡以上**

ウ 離着陸帯の標識（緑地部分）

現行 … 離着陸帯（外枠）と着陸帯（内枠）の2重枠（※医療施設は1枠）

新基準 → **離着陸帯の1枠**

エ 離着陸帯内のヘリサイン

現行 … 基準上、ヘリサインを認めていない

新基準 → **ヘリサインを例示**

- (2) 維持管理

維持管理の指針と項目を予防事務審査・検査基準に明記

- (3) 停止・廃止に係る手続き

運用停止、廃止の場合の指導内容を予防事務審査・検査基準に明記

- (4) 現行基準からの所要の整備を図った。

＜新技術＞

アルミデッキの離着陸帯



＜社会ニーズ＞

人工芝の離着陸地帯を兼用した展望施設



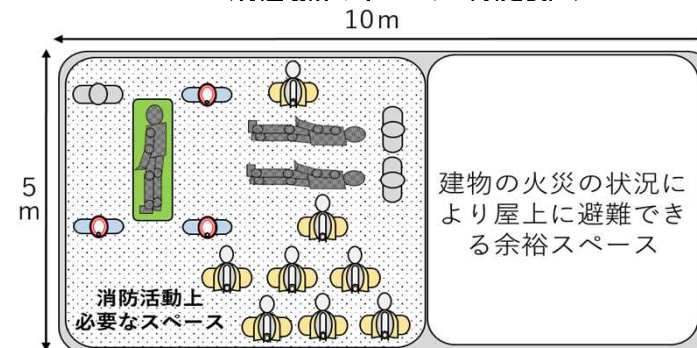
フィルムシートの標識



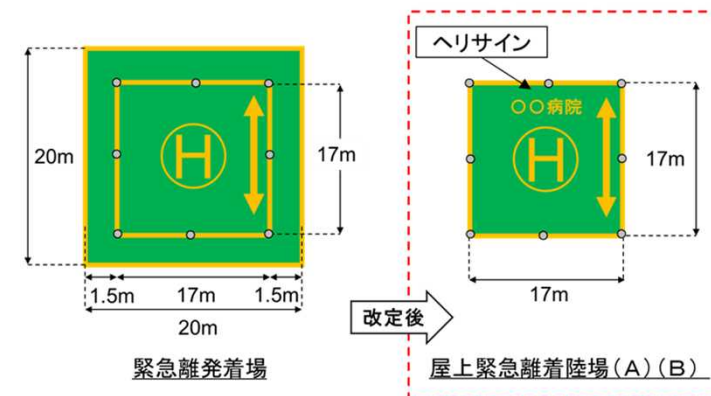
展望施設を兼ねた緊急離着陸場



＜待避場所のイメージ（改定後）＞



＜屋上緊急離着陸場と緊急離着陸場の比較＞



○：着陸区域境界灯 ※その他、認識番号、最大荷重標識が表示されます。